

よし いずみ
吉 泉 遺 跡

福岡県八女市大字室岡所在遺跡の調査報告書

八女市文化財調査報告書 第76集

2006

八女市教育委員会

序

八女市の西部にある室岡地区は、交通のアクセスが良いためか最近になって開発が急速に進み、住宅や工業団地、大型店舗等の建設が相次いでいます。これに伴ってこの地区における埋蔵文化財の発掘調査も増加し、貴重な文化財の発見も相次いでいるところです。今回の調査は住宅建設に伴うもので、住宅に付属する施設を建設前に発掘調査したものです。発掘調査の実施にあたりまして大石不動産 大石重則様はじめ、関係各位に終始ご協力いただき、心から感謝いたしております。

平成18年3月31日

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

例言

- 1 本書は八女市教育委員会が八女市大字室岡 大石不動産 大石重則の委託を受けて実施した福岡県八女市大字室岡字古泉所在、古泉遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は八女市教育委員会が主体となり実施した。
- 3 遺構の実測は参加者で行い、写真は赤崎が撮影した。
- 4 出土した遺物については、岩戸山歴史資料館で整理を行い、保管している。
- 5 本書の執筆、編集は赤崎が行った。

本文目次

1 はじめに	1
2 位置と環境	1
3 調査経過	4
4 遺構と遺物	6
5 まとめ	15

挿図目次

第 1 図	吉泉遺跡周辺遺跡分布図 [1/25, 000]
第 2 図	吉泉遺跡調査位置図 [1/2, 500]
第 3 図	吉泉遺跡遺構配置図 [1/500]
第 4 図	A・B・C・D・E・Fトレンチ実測図 [1/60]
第 5 図	Aトレンチ (SB01) 出土土器実測図 [1/4]
第 6 図	Cトレンチ (SD01) 出土土器実測図 [1/4]
第 7 図	Dトレンチ (SB02) 出土土器実測図 [1/4]
第 8 図	Eトレンチ (SB03・ビット1) 出土土器実測図 [1/4]
第 9 図	Fトレンチ (SB04) No. 1 出土土器実測図 [1/4]
第10 図	Fトレンチ (SB04) No. 2 出土土器実測図 [1/4]
第11 図	G・H・I・Kトレンチ実測図 [1/60]
第12 図	Gトレンチ (SB05) 出土土器・石製品実測図 [1/4]
第13 図	Iトレンチ (SD03・ビット2) 出土土器実測図 [1/4]

図版目次

図版 1	(1) 吉泉遺跡全景 (北より)	(2) 吉泉遺跡全景 (西より)
図版 2	(1) Aトレンチ	(2) Bトレンチ
図版 3	(1) Cトレンチ	(2) Dトレンチ
図版 4	(1) Eトレンチ	(2) Fトレンチ
図版 5	(1) Fトレンチ土器出土状況	(2) Fトレンチ完掘後
図版 6	(1) Gトレンチ	(2) Gトレンチ土層
図版 7	(1) Iトレンチ	(2) Iトレンチ土層
図版 8	(1) Hトレンチ	(2) Kトレンチ

1 はじめに

吉泉遺跡は福岡県八女市大字室岡字吉泉473番地1ほか3筆に所在する。

調査の発端は、当該地3,410.86㎡に宅地を開発し住宅を建設する計画がなされたことによる。当地は旧財務局住宅跡地として平成10年2月に行った試掘調査によって、弥生時代を中心とした集落が発見された。このため跡地の開発にあたっては文化財部局と協議が必要の旨の回答を行った。その後、民間に払い下げられ、購入した宅地開発者より調査の依頼があった。両者が協議を重ねた結果、建物部分は0.3-1.0m以上の盛土がなされる事から、発掘調査は浄化槽によって掘削される約50㎡のみを実施する事とし、平成17年8月22日付けで大石不動産 大石重則氏より発掘届が提出された。発掘届の提出により平成17年11月1日付けで「埋蔵文化財発掘委託契約書」を締結した。

調査は平成17年11月14日に開始、天候にも恵まれ平成17年12月8日、現地での発掘調査は終了し、引き続き整理と報告書作成を行った。

平成17年度の調査関係者は次のとおりである。

平成17年度

調査委託 大石不動産

代表 大石 重則

八女市教育委員会

教育長 中島 清志

生涯学習課課長 下川文比古

生涯学習課長補佐 古庄 龍美

文化財係長 赤崎 敏男

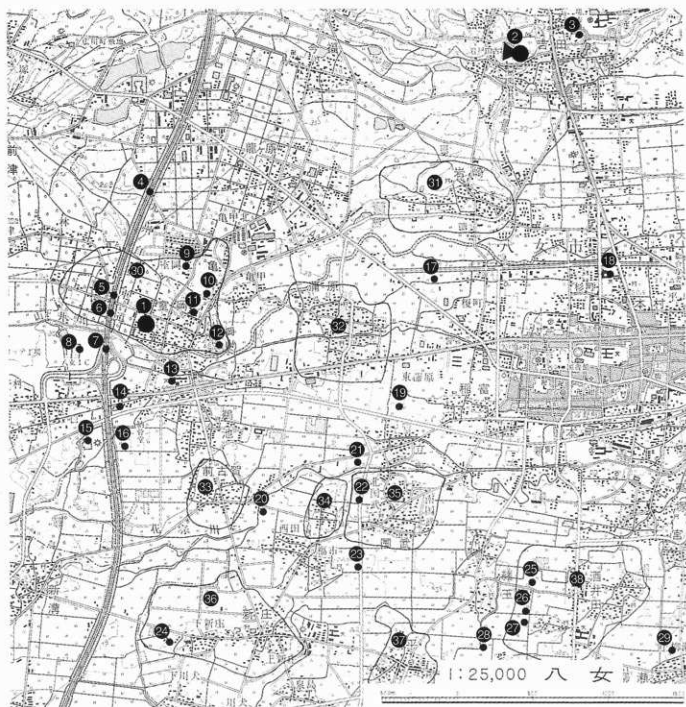
同係員 中川寿賀子

同係員 大塚 恵治

2 位置と環境

八女丘陵から派生した洪積台地の南端は、矢部川による侵食によって段丘が顕著であり、台地上では標高約3.3m、南側に広がる沖積地は標高約2.3mと、両者の間には1.0m近い高低差を生んでいる。台地の南東端には標高4.4.8mの、通称「岡山さん」があり、半島状に突き出た姿はひととき目立ち、山頂には平成4年に調査を行った円墳（岡山公園古墳）があり、山頂からは八女の平野部を一望に見渡すことができる。

室岡台地上にはこれまで各所において発掘調査が実施されている。特に、台地南端には昭和37



1. 吉泉遺跡 2. 岩戸山古墳 3. 乗場古墳 4. 西中ノ沢遺跡 5. 坊野遺跡 6. 野口遺跡
7. 道添遺跡 8. 室岡工業団地内遺跡 9. 西山ノ上遺跡 10. 山ノ上遺跡 11. 北小路遺跡
12. 岡山公園古墳 13. 岡山小学校校庭遺跡 14. 曲田遺跡 15. 上柳遺跡 16. 松ノ外遺跡
17. 惣津町遺跡 18. 福島中学校校庭遺跡 19. 一竿遺跡 20. 川原遺跡 21. 立野・大坪遺跡
22. 篠原遺跡 23. 前田・大坪遺跡 24. 六反田遺跡 25. 深田遺跡 26. 二反田遺跡
27. 宮ノ前遺跡 28. 宿町遺跡 29. 茶ノ木ノ本遺跡 30. 室岡遺跡群 31. 岩崎遺跡群
32. 蒲原遺跡群 33. 前古賀遺跡群 34. 今山遺跡群 35. 国武遺跡群 36. 新庄遺跡群
37. 平遺跡群 38. 酒井田遺跡群

第1図 吉泉遺跡周辺遺跡分布図 [1/25,000]



第2図 吉泉遺跡調査位置図 [1/2,500]

年から38年にかけて調査された亀ノ甲遺跡があり、住居跡4軒、甕棺墓20基、箱式石棺墓25基、土壊墓21基、溝1条が発見され鏡、イモガイ製貝輪、鉄剣、鉄斧が出土している。昭和58年にも北小路遺跡から住居跡6軒、ピット8、甕棺墓6基、箱式石棺墓11基、土壊墓4基、石蓋土壊墓1基、木棺墓1基、大溝1条、中世遺構2が発見されている。山ノ上遺跡では昭和56年から昭和61年間で3回の調査によって、住居跡14軒、貯蔵穴54基、土壊11基、甕棺墓1基、箱式石棺墓2基、土壊墓3基、溝5条が発見されている。

東側には丘陵上に南北に走る九州縦貫自動車道があり、建設に伴って昭和46年から47年にかけて相次いで調査が行われ、中位段丘上にある西中ノ沢遺跡、坊野遺跡から弥生時代の住居跡が、この他、植木穴掘削中偶然の機会に多量の弥生時代後期の遺物が出土した、弥五郎遺跡などが発見されている。山井川の南側には低位の段丘が広がっており、野口遺跡、道添遺跡から弥生・古墳時代住居跡、掘立柱建物、岡山小学校校庭遺跡から弥生時代住居跡、平成4年に行った3次にわたる室岡工業団地内遺跡の調査によって弥生時代後期から古墳時代の住居跡113軒、歴史時代の掘立柱建物跡37棟が発見されている。これら中位から低位の段丘上には弥生時代前期から歴史時代に到るまで数多くの遺跡が存在している。現在の国道442号線から南側に広がる沖積地については、平成5年度から8年度まで4年間、県営農村活性化住環境整備事業に伴って数多くの遺跡の発掘調査を実施し、二重環濠を有する弥生時代前期の立野・大坪遺跡をはじめ貴重な遺跡が発見されている。

3 調査経過

平成17年11月14日 器材搬入、基準点を確認し水準点を移動する。発掘前写真撮影。

11月15日 本日よりバックホーを入れ、10箇所の調査を開始する。

11月16日 本日より作業員を入れ、遺構を検出する。各トレンチの遺構検出。

11月17日 遺構検出後の写真撮影。遺構の掘り下げを開始する。

11月18日 A, C, Dトレンチ掘り下げ。

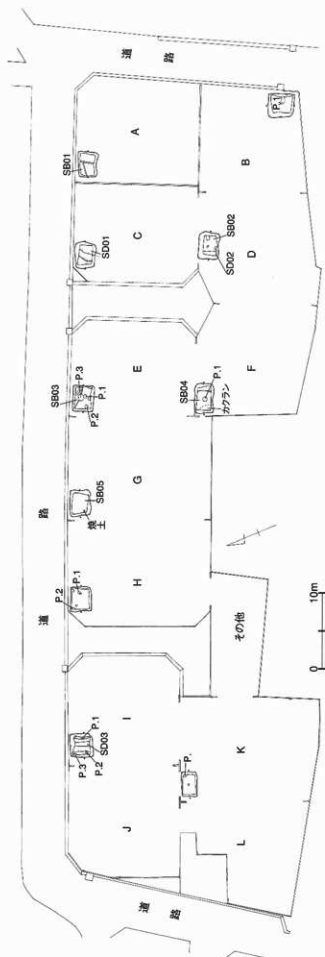
11月22日 10箇所のトレンチで遺構検出終了。F, G, I掘り下げ。

11月28日 C, D, F, G, Iトレンチ掘り下げほぼ完了。平板測量完了。

11月30日 各トレンチの写真撮影。撮影後実測開始する。

12月 7日 平面図にレベル記入する。

12月 8日 レベル、位置記入し、終了時の写真撮影。本日にて現場での作業は終了する。



第3図 吉泉通跡遺構配置図 [1/500]

4 遺構と遺物

A区からL地区までに10ヵ所のトレンチを設定したが、各トレンチから弥生時代、歴史時代の遺構と遺物が発見されている。

1 Aトレンチ

(1) 遺構 (第4図、図版2)

SB01 竪穴住居の一部が発見された。方形をした住居の一部で深さ約30cmで規模は不明である。遺物として竪穴住居内から、弥生時代後期の埴と甕が出土している。

(2) 遺物 (第5図)

① 口径7.8cm、器高2.9cmの小型の埴で、一部を欠損している。内外面ともナデ調整。胎土に砂粒や小石を含むが焼成は良く、暗茶褐色を呈している。

② 底径約7.8cm、甕の底部で、一部を欠損している。内外面ともハケ目調整。胎土に砂粒や大小の小石を含むが焼成は良く、暗灰褐色を呈している。

2 Bトレンチ

(1) 遺構 (第4図、図版2)

わずかにビット1個が検出された。

(2) 遺物

遺物は出土しなかった。

3 Cトレンチ

(1) 遺構 (第4図、図版3)

SD01 溝1条が発見された。北東から南西方向に流れる幅1+αm、深さ50cmの溝で、Dトレンチで検出された溝に続くと思われる。遺物として溝内から、中世の瓦器埴が出土している。

(2) 遺物 (第6図)

① 口径17.8cmの小型の瓦器埴で、下部を欠損している。内外面ともヘラミガキで調整。胎土にわずかに砂粒を含み焼成は不良で、黄味を帯びた灰褐色を呈している。

② 瓦器埴口縁部の細片で、内外面ともヘラミガキで調整。胎土にわずかに砂粒を含むが焼成は良く、灰褐色を呈している。

4 Dトレンチ

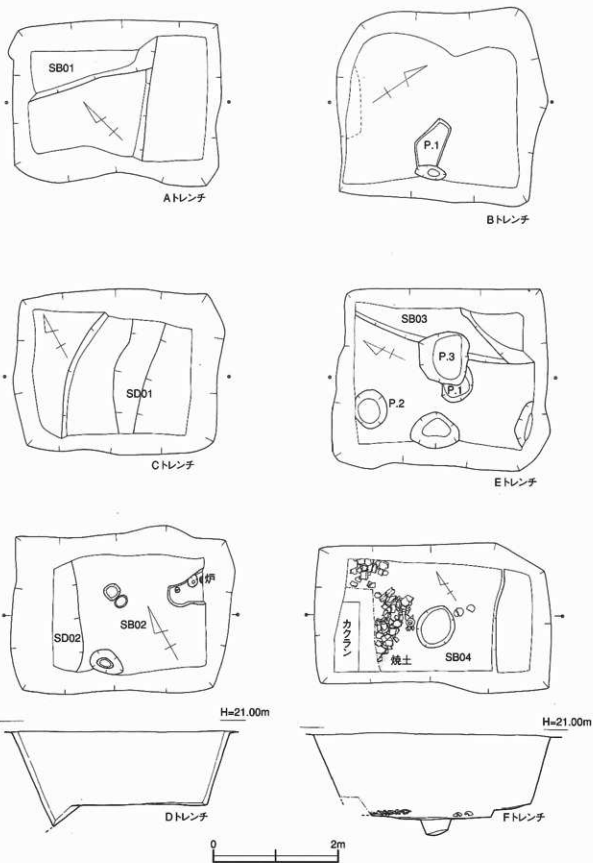
(1) 遺構 (第4図、図版3)

SB02 調査区全体が竪穴住居の中に収まっているため、規模は不明である。方形住居のほぼ中央付近と思われ、床面から炉跡の一部の焼土とビット3個が検出された。

SD02 トレンチの西側には溝の一部が発見された。Cトレンチから続く溝の一部とも考えられる。遺物として竪穴住居内から、弥生時代後期の埴が出土している。

(2) 遺物 (第7図)

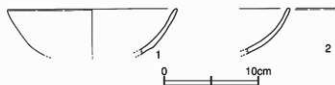
① 口径10cmの埴口縁部片で、下部を欠損している。外面ヘラミガキとナデ、内面ナデによる調整が行われている。胎土にわずかに砂粒を含み焼成はやや不良で、黄褐色を呈している。



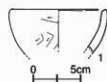
第4図 A・B・C・D・E・Fトレンチ実測図 [1/60]



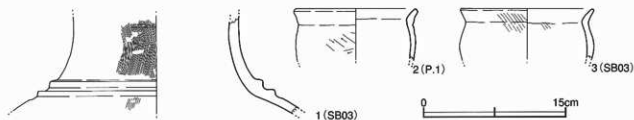
第5図 Aトレンチ (SB01) 出土土器実測図 [1/4]



第6図 Cトレンチ (SD01) 出土土器実測図 [1/4]



第7図 Dトレンチ (SB02)
出土土器実測図 [1/4]



第8図 Eトレンチ (SB03・ピット1) 出土土器実測図 [1/4]

5 Eトレンチ

(1) 遺構 (第4図、図版4)

竪穴住居1棟とやや大きなピット5個が発見された。

SB03 竪穴住居は西側壁の一部のため規模は不明。床面まで深さ20cm程残っている。住居内より弥生時代後期の壺と甕が出土している。

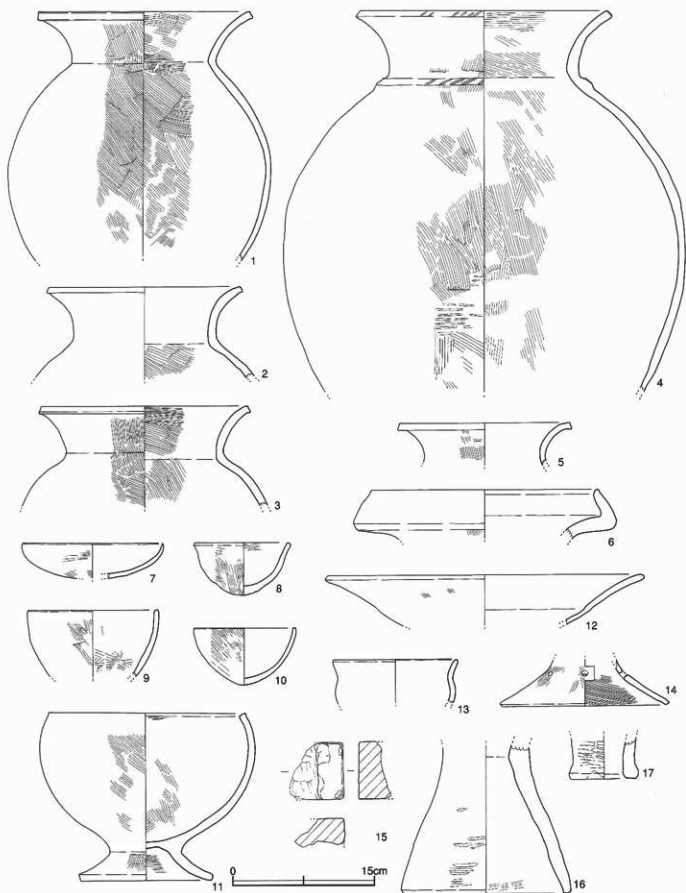
竪穴住居と切り合って一辺50cmの方形のピット3があり、ピット1を切っている。いずれのピットも深く、掘立柱建物の可能性もある。ピット1より弥生時代後期の甕が出土している。

(2) 遺物 (第8図)

① 壺の頸部で、肩の部分に三角形の張り付け突帯が二条めぐっている。外面は細かなハケ目調整。内面は摩滅のため不明。胎土に砂粒や小石を含み焼成はやや不良で、淡黄褐色を呈している。

② 口径12.6cmの小型の甕片で、胎土にわずかに砂粒を含み、焼成はやや不良。暗茶褐色を呈している。

③ 口径13.8cmの小型の甕片で、胎土に砂粒を含み、焼成は良く、暗茶褐色を呈している。



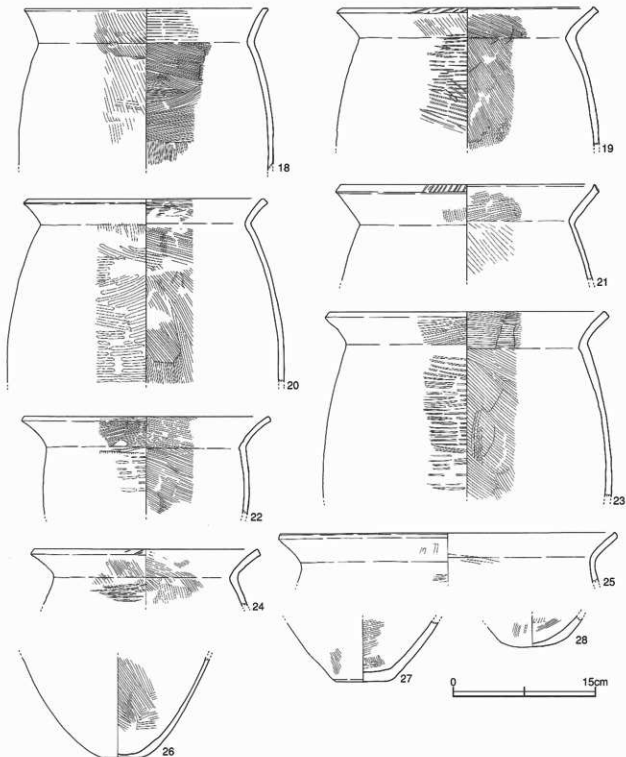
第9図 Fトレンチ (SB04) No.1出土土器実測図 [1/4]

6 Fトレンチ

(1) 遺構 (第4図、図版5)

竪穴住居1棟が発見された。

SB04 竪穴住居のはほぼ中央と思われ、西側が建物の基礎によって壊されており、東側壁の一部が検出されたが、規模は不明。中央に直径約60cmの浅いピットがあるが性格は不明である。床面まで深さ15cm程残っている。住居内より弥生時代後期の甕が多量出土している。

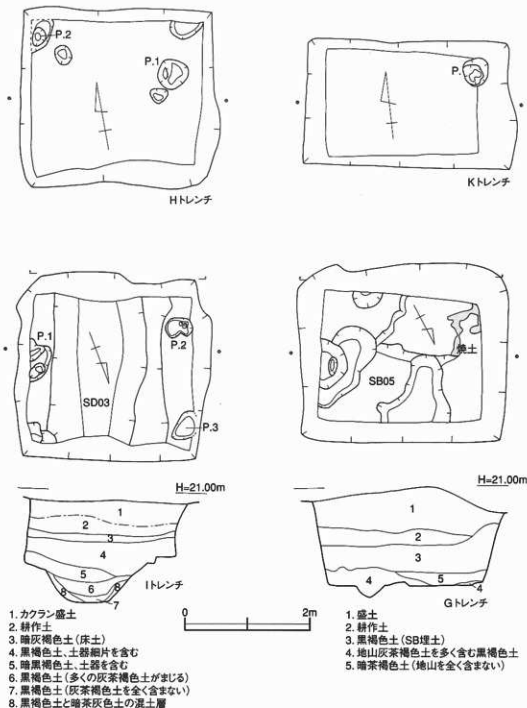


第10図 Fトレンチ (SB04) No.2出土土器実測図 [1/4]

(2) 遺物 (第9・10図、図版5)

①—⑤ 甕で、口縁部は「く」の字状に大きく開く。口唇部に斜めの刻みを施すもの (④・⑯・⑳・㉑・㉒) と施さないものがある。胴部は余り張らずに底部に移る。外面口縁部は荒いハケ目調整、胴部は横方向のタタキ。内面は横や斜め方向のやや粗いハケ目調整で仕上げられている。いずれも胎土に砂粒や小石を含み焼成はやや不良で、淡黄褐色を呈している。

㉓—㉔ 甕の底部で、いずれも丸味を持ち「凸レンズ」の底となる。外面はハケ目とナデ調整、内面は横や斜め方向のやや粗いハケ目調整。いずれも胎土にわずかに砂粒を含み、焼成はやや不良。暗黄褐色を呈している。



第11図 G・H・I・Kトレンチ実測図 [1/60]

7 Gトレンチ

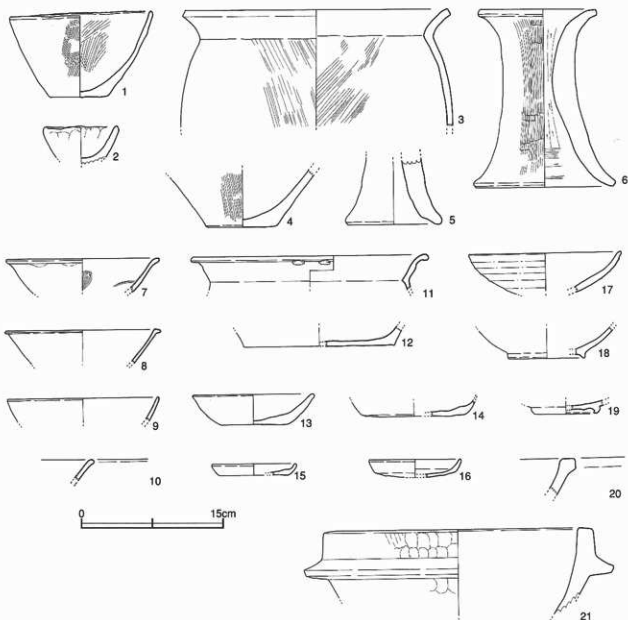
(1) 遺構 (第11図、図版6)

竪穴住居1棟と住居に切り込んだ中世の遺構が発見された。

SB05 竪穴住居のはば中央と思われ、側壁の一部も検出できなかった。床面にはビットがあるが性格は不明である。一部は中世に掘り込まれた可能性もある。床面に接して焼け土が検出された。住居の埋土が深さ60cm程残っている。住居内より弥生時代後期の甕、鉢、器台、手捏鉢が出土している。また、上部から掘り込まれた中世の遺構から白磁碗、陶器甕、鍋、須恵器坏、瓦器碗、土師器坏、皿、滑石製石鍋が出土している。

(2) 遺物 (第12図)

① 口径14.8cmの小型の鉢で、外面はハケ目調整、内面は横や斜め方向のやや粗いハケ目調整。胎土に砂粒を含み、焼成は良く、暗茶褐色を呈している。



第12図 Gトレンチ (SB05) 出土土器・石製品実測図 [1/4]

② 口径7.5 cmの手捏の鉢で、内外面とも指押さえ痕が良く残る。胎土に砂粒を含み、焼成は良く、茶褐色を呈している。

③ 甕で、口縁部は「く」の字状に大きく開く。胴部は余り張らずに底部に移る。外面は粗いハケ目調整、内面は横や斜め方向のハケ目調整で仕上げられている。いずれも胎土に砂粒や小石を含み焼成は良く、淡黄褐色を呈している。

④ 甕の底部で、平底となる。外面はハケ目調整、内面は不明。横や斜め方向のやや粗いハケ目調整。いずれも胎土にわずかに砂粒を含み、焼成は良く、暗茶褐色を呈している。

⑤-⑥ ⑤は口径12.3 cm、底径14.5 cm、高さ18.7 cmの器台、⑥は底径10.2 cmの器台で、⑥は外面ハケ目調整、内面はヘラと一部横方向のやや粗いハケ目調整。⑤、⑥とも胎土に砂粒を含み、焼成は良く、暗茶褐色を呈している。

⑦-⑩ 白磁 いずれも口径16 cm前後の埵で、薄くつくられている。⑦の内面は櫛状工具で文様を描き、⑧は貫入が入る。胎土は精選された灰白色で、内外面とも灰白色や黄灰色の釉がかかっている。

⑪-⑫ 陶器 復原口径24.8 cmの壺で、口縁部の小片である。全体的に薄くつくられ、口縁部は「く」の字状に外反しする。口縁部下には軽石片を用いた目跡が付いている。内面は口縁部と胴部の境は鋭い稜が付く。胎土は精選された灰色で、内外面とも灰釉がかかっている。⑫は⑪の底部で復原径16 cm、内面のみ灰釉がかかり一部褐釉も残る。外面には釉はかからない。

⑬-⑭ 瓦器 口径16 cmの埵で、⑭は底径8 cm。内外面ともヘラミガキで調整。ともに胎土に砂粒を含み、焼成は良くなく、灰褐色を呈している。

⑮ 須恵器 底径6.6 cmの坏で、内側にやや内湾する貼り付け高台を有する。内外面ともナデ調整。胎土に細かな砂粒を含み、焼成は良く、灰色を呈している。

⑯-⑰ 土師器 ⑯は復原口径12.6 cm、高さ3.2 cmの坏で、⑰は復原底径10.8 cm。内外面ヨコナデ調整。ともに胎土に細砂粒を含み、焼成は良くなく、淡黄褐色を呈している。

⑱-⑲ 土師器 いずれも小片で復原口径8.8-9.6 cm、復原高さ1.2-2.0 cmの皿で、内外面とも調整は摩滅のため不明。ともに胎土に細砂粒を含み、焼成は良くなく、淡黄灰色を呈している。

㉑ 土師器 復原口径約30 cm程の鍋で口縁部の小片である。外面胴部は粗いハケ目で調整。胎土に砂粒を含み、焼成は良くなく、茶褐色を呈している。外面は強く火を受けており、煤が付着している。

㉒ 石鍋 口径28.6 cmの滑石製石鍋で、口縁部と鐙の部分のみ残っている。口縁部と胴部にノミ痕が残る。

8 Hトレンチ

(1) 遺構 (第11図、図版8)

直径40-50 cm、深さ30 cm前後のピット2個と、直径25 cm、深さ10 cm前後のピット3個が発見された。ピットからは遺物は出土しなかった。

9 I トレンチ

(1) 遺構 (第11図、図版7)

南北に延びる溝1条と、溝横から直径30-40cm、深さ20-50cmのビット4個が発見された。SD03は北から南方向に流れる幅1.3-1.5m、深さ45cm前後の溝で、U字形を呈している。溝内は黒褐色土と暗黒褐色土が堆積しており、自然に埋没している。溝底の高さはほぼ同じであるが、周辺の地形から見ると北から南側に流れていたものと思われる。遺物として溝内から、中世の青磁、瓦器、土師器が、ビット2からは弥生時代後期の鉢が完形品で出土している。

(2) 遺物 (第13図)

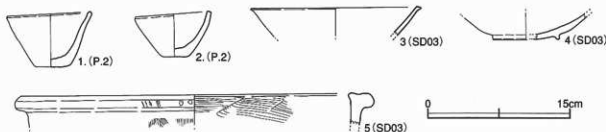
① 口径8.7cm、高さ5.6cmの小型の鉢で完形品である。外面はタタキ後ナデ調整、内面はナデ調整。胎土に砂粒を含み、焼成は良く、淡黄灰褐色を呈している。

② 口径7.5cm、高さ4.5cmの小型の鉢で完形品である。内外面はナデ調整、胎土に砂粒を含み、焼成は良く、黄褐色を呈している。

③ 青磁 復原口径17.8cmの壺で口縁部片である。胎土は精選された淡灰色で、淡黄灰色の釉がかかる。

④ 瓦器壺の底部片で、内外面ともヘラミガキで調整。胎土にわずかに砂粒を含むが焼成は良く、灰褐色を呈している。

⑤ 土師器 復原口径36.6cm程の鍋で口縁部の小片である。口縁部の一部に刻み目を施し、外面胴部は粗いハケ目、内面口縁部は横方向に粗いハケ目調整。胎土に砂粒を含み、焼成は良く、暗黄褐色を呈している。



第13図 I トレンチ (SD03・ビット2) 出土土器実測図 [1/4]

10 K トレンチ

(1) 遺構 (第11図、図版8)

調査区の北東隅に直径40cm、深さ35cmのビット1個が発見された。ビットからは遺物は出土しなかった。

5 まとめ

今回の調査は宅地開発地約3400㎡の内、住宅設備部分10ヵ所約50㎡の調査を実施し、全域に設定した10ヵ所のトレンチのすべてから弥生時代または、中世の遺構が検出され、遺構は全域に広がっている事が判明した。

調査の結果、A、D、E、F、Gトレンチから弥生時代後期の竪穴住居5軒、ピットが検出されたが、いずれも竪穴住居の一部で、全体の構造等は不明である。しかし、SB01、04から壁の一部が確認されており、方形または長方形を呈するものと考えられる。また、SB02、04、05からは炉の一部や焼土も検出されている。出土遺物も各竪穴住居から出土しているが、SB04、05からやや多く出土している。いずれも弥生時代後期後半の土器が中心であるため、ほぼ同時期の竪穴住居と思われる。このほか、Eトレンチからはやや大型のピットが検出され掘立柱建物の可能性があるが、一部分のため不明である。

C、D、Iトレンチから中世の溝3条が発見されたが、C、Dトレンチの溝は同一の溝と思われる。いずれも幅約1.5m、南北方向の方位はほぼN-35°-EでC、Dトレンチ(SD01、02)とIトレンチ(SD03)間は約60mの距離がある。遺物もSD03から青磁、瓦器、土師器が、ほぼ中間のGトレンチから白磁、陶器、瓦器、土師器、石鍋が出土しており、いずれも13世紀頃の遺物である。

吉泉遺跡周辺からはこれまで中世の遺構や遺物が数多く発見されている。北東約300m北小路遺跡からは中世溝と周辺から白磁碗が、北東約400mにある国道442バイパス西山ノ上遺跡からは平成13年に調査で、南北方向の溝の方位はほぼN-35°-E前後で南北72-3m、東西58-62m、長方形の溝が発見され、内部より、掘立柱建物、柵列、井戸、土こうと、大量の中国製陶磁器が発見され、13世紀頃の中世武士の居館と考えられている。

今回発見された吉泉遺跡発見の溝は中世居館の一部と見られ、居館の東西溝と考えると、西山ノ上遺跡から発見された居館とほぼ同規模となる。北小路遺跡、吉泉遺跡発見の溝が居館の一部とすると、平野を望む台地南端に中世武士の居館が規格を持って点在する姿が見えるような気がする。

圖 版



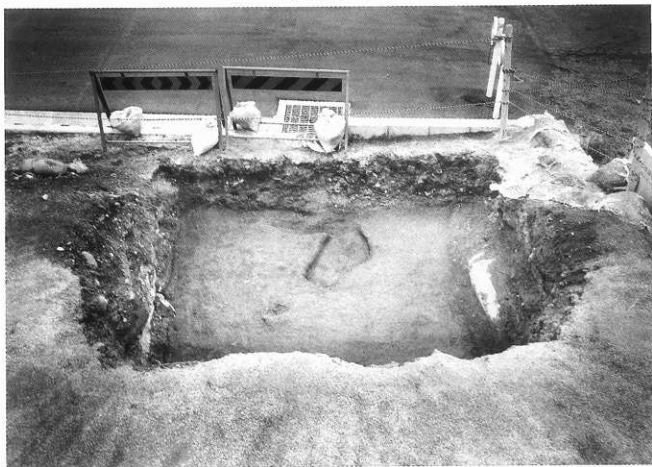
(1) 吉泉遺跡 全景 (北より)



(2) 吉泉遺跡 全景 (西より)



(1) Aトレンチ



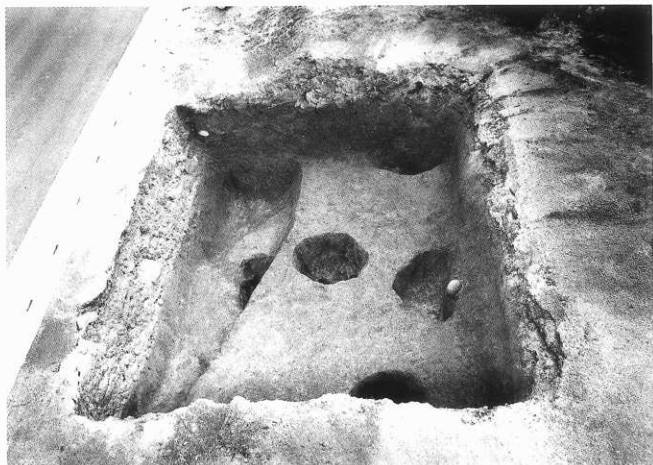
(2) Bトレンチ



(1) CTレンヂ



(2) DTレンヂ



(1) Etレンチ



(2) Ftレンチ



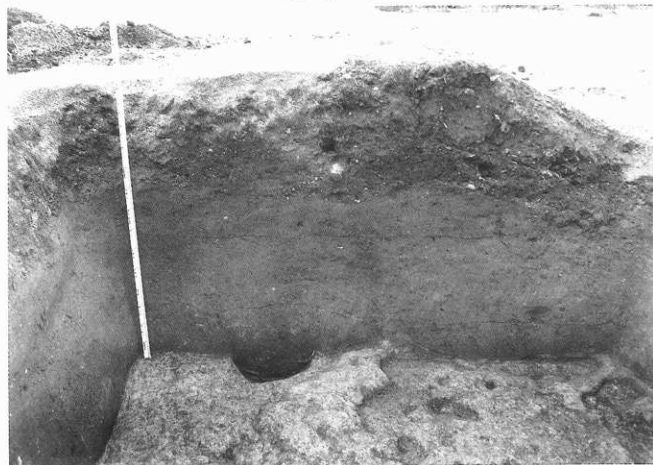
(1) フトレンチ 土器出土状況



(2) フトレンチ 完掘後



(1) Gトレンチ



(2) Gトレンチ 土層



(1) 1トレンチ



(2) 1トレンチ 土層



(1) Hトレンチ



(2) Kトレンチ

報告書抄録

ふりがな	よしいずみいせき						
書名	吉泉遺跡						
副書名	福岡県八女市大字室岡所在遺跡の調査報告書						
巻次							
シリーズ名	八女市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第 7 6 集						
編著者名	赤崎 敏男						
編集機関	八女市教育委員会						
所在地	834-8585 福岡県八女市大字本町 6 4 7 TEL 0943-23-1982						
発行年月日	西暦 2 0 0 6 年 3 月 3 1 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村：遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
よしいずみ 吉泉遺跡	よくおかけん 福岡県 やふし 八女市大字室岡 よしいずみ 字吉泉	402109	33° 12' 35"	130° 31' 45"	051114~051208	50㎡	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
吉泉遺跡	集落跡	弥生時代 後期 鎌倉時代	竪穴住居, 5 溝, 3	弥生式土器 青磁 白磁 陶器 瓦器 土師器			

吉 泉 遺 跡

八女市文化財調査報告書
第 76 集

平成18年3月31日

発行	八女市教育委員会
	八女市大字本町647
印刷	橋爪印刷
	八女市大字吉田1899-1